

第 42 回組織細胞化学講習会 参加報告

医学系部門 生命科学実験班 尾崎 佑子

1. はじめに（目的等）

あらゆる細胞や組織の形態や機能を可視化してその生命現象の本質に迫る組織細胞化学の技術は、生命科学分野の研究に必要不可欠な実験手法となっている。私が配属されている原医研では技術支援の一つとしてこれらの手技を用いた組織標本作製を行っている。日々進歩する組織細胞化学において、適切な技術支援を行うためには、相応の知識と高度な技術が必要で、そのためには日々の経験の積み重ねとともに、新しい技術や知識の習得が不可欠である。そこで、新たな知識や技術の習得・情報収集を行うことを目的として、本講習会に参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 2 日(水) ～ 4 日(金)

会場：前橋市民文化会館、群馬大学昭和キャンパス(群馬県前橋市)

3. 参加者等

講習会(1,2 日目)：300 名程度

技術講習会(3 日目)：125 名程度

4. 研修内容

1, 2 日目の講習会では、組織細胞化学とその関連技術について「免疫組織化学の基本、基礎と応用」や「光学

顕微鏡の使い方-基本と実践-」など、計 19 演題を聴講した。

3 日目の技術講習会(Wet Lab)では、11 コースの中から、「免疫組織化学の基本と応用(パラフィン切片を用いた染色法)」を選択し、実習に参加した。

5. まとめと感想

今回の講習会では、組織細胞化学的手法の基本と応用や免疫組織化学に必要な抗原抗体反応の詳細など、新たな知識や技術、情報を得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

1, 2 日目の講習会は組織細胞化学的手法だけではなく、それ以外の切片を用いない方法について、他ではあまり聞くことができない裏技や、トラブルシューティングなどを聴講でき、大変勉強になった。

3 日目の技術講習会では、この組織細胞化学の分野で長年活躍されている先生からパラフィン切片を用いた免疫染色法について直接ご指導いただいた。これまで培養細胞の免疫染色を行った経験はあるが、組織の免疫染色は初めてで、細胞の時とは違った手技や注意点などを実際に手を動かしながら詳細に学ぶことができ、とても良い経験になった。また、同じ実習に参加した先生方とも情報交換ができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

今後は本講習会で学んだ知識や技術を生かし、効率的で質の良い技術支援ができるよう、さらに自己研鑽を積んでいきたい。